

『2018 megumi に乗ってびわ湖の中をのぞいてみよう』

小学生と保護者が一緒に琵琶湖汽船の学習船「megumi 号」に乗って、びわ湖を学び、びわ湖について考えるイベントです。平和堂財団様からの助成を受けて実施しています。

今年で 8 年目の企画となりますが、募集人数の 2 倍以上の応募がある“人気の親子体験学習クルーズ”です。

2018年の第1回目は7月24日（火）に行われ、抽選によって選ばれた17組42名（小学生23名、保護者19名）が参加しました。



この日は、浜大津港を出港し、北湖にある「沖の白石」を経由した後沖島に寄港。沖島から浜大津港に戻る6時間30分のびわ湖周回コースとなりました。

沖の白石に向かう船上で、講師の西勝也先生から、びわ湖の水温の測定方法を学んだ後、沖の白石周辺に船を停泊させて、皆で、湖水表面と水深17mの水温を測定しました。大きな温度差があることを知ると同時に、水深17mから採取した湖水に手を入れ、全員が“こんなに冷たいのか！！”と思わずビックリ。

船上で昼食を取った後、沖島に寄港。下船して、約1時間、沖島漁業会館周辺の島内を散策し、島の人々の暮らしぶりを見させていただき、貴重な体験をしました。



島内散策後、棧橋に megumi 号を停泊させた状態で、水中ロボットを使って「湖中観察」を行った。平山巧馬氏<株式会社近江デジタルファブリケーションズ 代表取締役>が作成したロボットで、名前はまだ無い。

平山氏の指導の下、小学生全員がモニター画面を見ながら、水中ロボットの操作を体験した。

水中を泳ぐ魚を上手く追いかけてモニターに映し出せた子から、湖底の泥をまき上げて何も見えずで、がっかりした子など、様子は様々。

皆楽しそうで、保護者の方もやりたそうな顔つきであった。



第2回目は8月9日(木)に実施。やはり抽選で選ばれた17組42名(小学生22名、保護者20名)が参加。

今回は台風の影響で沖島への寄港が出来ず、浜大津港から沖の白石、白髭神社沖を経由して琵琶湖大橋港に寄港するコースを取り、5時間30分の周回コースとなった。

沖島寄港がかなわず“ちょっと残念!”の声。

沖の白石到着までの船上で、組ごとに「透明度板」を組み立て。“ひも”の結び方のコツの習得に少し手間取った様子だったが、全員上手く組み立てることができた。



透明度測定地点へ移動する間に、船長さんの計らいで、白髭神社の、湖中の鳥居と浜の鳥居が重なるところをゆっくりと航行。滅多にない湖からの白髭神社参拝に、ほぼ全員、敬虔な情に浸りながらシャッター押していた。

北湖の透明度は白髭神社沖で測定。6~7mの透明度で、普段見慣れた湖水とはだいぶ違う様子に感嘆の声。

白髭神社沖では、専用ネットを使ってプランクトンを採取。その後、琵琶湖大橋港に移動し、ここでもプランクトンを採取。

琵琶湖大橋港棧橋に停船した状態で、周辺から採取した湖水のプラウクトンを顕微鏡観察した。

顕微鏡は組毎に1台が使用できるので、皆、標本パネルを見ながら、ゆっくりと観察し、見つけたプランクトンの種類を書き出していた。

幸か不幸か、琵琶湖大橋港棧橋はプランクトンが豊富で、観察は容易であった様子。



プランクトン観察後は、沖島に代わって「琵琶湖大橋米プラザ」に上陸。冷たいアイスと、地元の特産品買いを楽しんだ方も多い。

海の子とは一味違った「琵琶湖を知る」学習に、参加者のほぼ全員から、楽しくかつ貴重な経験であったとの感想を頂いた。



(記: 大河原 秀康)